

第16回 日台文化交流 青少年スカラシップ 2019



「日台文化交流 青少年スカラシップ」は、日台の架け橋となる若者の育成を目指します

産経新聞社およびフジサンケイ ビジネスアイを発行する日本工業新聞社は、日本と台湾の文化交流促進を目指す「日台文化交流 青少年スカラシップ」を実施します。

学生から「作文」、「スピーチ」を募集し、両部門の中から選ばれた大賞・優秀賞受賞者を台湾研修旅行に招待、日台間の相互理解と相互交流を深めます。

日本と台湾は歴史的なつながりが深く、双方の先人たちのたゆまぬ営みによってともに繁栄を遂げてきました。最近では金融や先端技術から農産物までさまざまな経済交流やマンガ・娯楽などの文化を通じて台湾の多くの人々が日本に強い関心を寄せ、世界の中でも最も親日家の多い土地柄でもあります。

本企画では、日本の若い世代が現地での学校訪問や、日本統治時代に日本語教育を受けた「台湾日本語世代」との交流など、幅広い年齢層の人々とのコミュニケーションを通して外から日本を見つめ直す機会を提供します。これにより、日台の新しい世代による友好関係を促進するとともに、アジア、世界で活躍できる人材の発掘と育成を目指します。

大賞・優秀賞受賞者を台湾研修旅行にご招待！

募集要項 — 作文、スピーチを募集

【応募資格】

作文部門: 中学校、高等学校(全日制、定時制、通信制)、盲・ろう・養護学校高等部、高等専門学校、短期大学、大学、大学院、専門学校に在籍する生徒・学生で29歳以下。

スピーチ部門: 関東圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、群馬県、栃木県)にある高校、大学、大学院、専門学校に在籍する生徒・学生で29歳以下。2019年2月12日(火)に都内で実施する最終審査会に参加できる方。

※両部門とも日本国籍を有していることが条件。

【点数】

各部門1人1点に限ります。(必ず応募用紙を添付してください)

※両部門の応募は不可

【作品送付先】

〒135-0033 東京都江東区深川2-12-4-201
(株)LSプランニング内 日台スカラシップ事務局分室
TEL. 03-5621-7850

【締め切り】2019年1月15日(火)必着

【発表】

2019年2月末までにフジサンケイ ビジネスアイ、産経新聞紙にて発表します。また応募者のEメールにも結果をお送りします。

※大賞～優秀賞の受賞者は2月12日(火)以降、事務局よりご連絡します。

【諸注意】応募作品は未発表のものに限ります。

※奨励賞までの著作権は主催者に帰属します。

※優秀作品は新聞やWeb等で公表します。

※資料などを引用する場合は出典を明記してください。

※応募作品は返却しません。

【事務局】(お問い合わせ)

産経新聞東京本社 メディア営業局内

「日台スカラシップ」事務局

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

TEL. 03-3275-8656(土日祝日を除く、10:00～18:00)

FAX. 03-3275-8932

E-mail. scholar@sankei.co.jp

【授賞式】2019年3月19日(火)予定

※大賞～優秀賞の受賞者と保護者を都内で行われる授賞式にご招待します。

【台湾研修旅行実施予定】

2019年3月19日(火)～3月24日(日)5泊6日予定

賞 — 大賞・優秀賞受賞者を台湾研修旅行にご招待

■大賞(台北駐日経済文化代表処 代表賞) 1名(優秀賞の中から選出) 表彰状、台湾研修旅行、奨学金5万円

■審査委員長特別賞 1名(優秀賞の中から選出) 表彰状、台湾研修旅行

■優秀賞 12名程度(両部門の中から選出) 表彰状、台湾研修旅行

■奨励賞 20名程度(両部門の中から選出) 表彰状

■佳作 数名程度(両部門の中から選出) 表彰状

募集作品の規定事項

*未発表のものに限ります。資料などを引用する場合は出典を明記してください。

■作文部門【日本語】

テーマ: 台湾に関すること

タイトル: ご自身で考えたタイトルを作品の応募用紙に記入してください。

文字数: 2000字以内

書式: A4用紙縦向き、横書き20字×20字(推奨)

※パソコン、手書きはどちらでも可

■スピーチ部門【中国語・台湾語】

テーマ: 台湾に関すること

タイトル: ご自身で考えたタイトルを作品の応募用紙に記入してください。

論文審査: 主張する内容を中国語(繁体字を推奨)で800字以内の論文にまとめてご応募ください。また、日本語訳も添付してください。

本審査: 論文審査通過者を対象に中国語または台湾語でスピーチしていただきます。(両方も可)

時間はスピーチ3分、審査員との質疑応答2分の計5分です。

配点は論旨30点、態度声調20点、熱意20点、即興(質疑応答)30点で合計100点。審査委員の合議で各賞を決定します。

*本審査日時: 2019年2月12日(火) 予定

(詳細は別途ご連絡いたします)

*本審査会場: 東京都内(詳細は別途ご連絡いたします)

前回報告書および作品集「第15回研修旅行の記録」はホームページ

<http://www.business-i.jp/scholarship/>

でご覧いただけます。

前回レポート

2018年 第15回台湾研修旅行

研修旅行の概要報告

SCHOLARSHIP TRAVEL TO TAIWAN

3/20(火)

・授賞式
・成田発⇒台北桃園国際空港へ

3/21(水)

・教育部を表敬訪問
・中正紀念堂観光
・総統府・陳建仁副総統を表敬訪問
・外交部と台湾日本関係協会を表敬訪問
・圓山大飯店(グランドホテル台北)観光
・台湾歌壇との会食(兄弟大飯店)

3/22(木)

・台湾高速鉄道で台南へ
・八田技師記念室見学
・烏山頭ダム見学
・億載金城を見学
・藍晒圖文創園區を散策
・台南赤崁楼を見学
・夕食(台南赤崁担仔麵)
・台湾高速鉄道で台北へ



3/23(金)

・龍山寺観光
・友愛グループとの昼食会
・学生交流プログラム
・東呉大学(大学生)
・延平高級中学(中学・高校生)
・台湾学生宅へホームステイ



3/24(土)

・学生討論会
・ホテル付近でショッピング(お土産購入)
・十分で天燈(ランタン)上げ
・九份散策



3/25(日)

・国立故宮博物院を見学
・昼食・人形劇ボテヒ体験(藪布袋戲園)
・台北・桃園空港発 成田着
⇒解散

※研修旅行のスケジュールは前回とは変わる場合があります。

台湾で歴史や文化を学び、現地の人々の優しさに触れ 成長の糧となった学生達の6日間

第15回参加者の感想文

水野 佐紀(愛知県立千種高等学校2年)

「台湾にとっての日本」それが一体どんなものなのかを今回の研修旅行での貴重な経験、そして出会ったすべての人々との交流を通して、私は身をもって感じる事ができました。

総統府、外交部、教育部では、政府関係者の方々とのお話や質疑応答の機会を頂き、日台の政府間の実情や日本統治時代の日本文化が台湾の多文化主義に大きく影響していることを学び、台湾歌壇、友愛会の日本語世代の方々との会食では、台湾の美食を堪能しながら、日本統治時代のお話や台湾の歴史について語り合いました。そして、私が一番楽しみにしていた延平高級中学の学生との交流会、ホームステイ体験。台湾の学生が日本に対してたくさんの関心を寄せ、一生懸命日本語を勉強する様子を見て、私ももっと台湾について勉強しなくては、と感化されました。また、日台関係を語る上で欠かせない「嘉南大圳」の父、八田與一。彼が生涯をかけて造り上げた烏山頭ダムのおまりの美しさに圧倒されました。戦後から台湾の方々が八田先生への敬意や感謝を忘れることなく、銅像を守り抜いてきた姿、八田先生が台湾の発展のために命を懸けて尽力した姿は、今後私たちがこの美しい日台関係を後世に残していくために見習うべき姿であり、先人達の教訓であると思います。

この6日間、台湾の方々の日本に対する親しみや愛を至るところで感じる事ができ嬉しく思う反面、我々が彼らの日本に対する想いに応える事ができているのか、と考えさせられるとともに、「日本にとっての台湾」とはなんだろう、という疑問が生まれました。現状として日本と台湾は正式な国交もないし、台湾は国連にも加盟していないし、見えない圧力により外交もままならない。「日台友好」に寄与する、というのは実は難しいこと。これは今回行われた学生討論で私たちが学んだことです。しかし、台湾は日本にとって手を携え、共に歩んでいくべき友であり、この研修旅行を通じて出会った仲間達、台湾で出会った方々と力を合わせれば、後世に続く強力な日台の懸け橋になれると確信しています。

今回の研修旅行で私の日台関係の発展のために貢献したいという気持ちは更に大きくなり、更に明確なものになりました。このような貴重な機会を与えてくださったすべての関係者の皆様に深く感謝しています。本当にありがとうございました。

杉山 香苗(東京都立晴海総合高等学校3年)

今回第15回日台文化交流青少年スカラシップ研修旅行に参加し、本当に多くの事を学ぶことができた。今までずっと行きたいと願っていた台湾に両国の友好の懸け橋として滞在できたのは、私にとって大変有意義な経験となった。中でも心に残っているのがこの研修旅行を通して出会った人々との交流である。

私は今回が初めての台湾訪問であり、基本的な知識もなく、中国語もろくに話せない私が総統府や教育部の訪問に加え、現地でホームステイなど出来るか心配だった。しかし教育部では私が質問したことによりずっと詳しく説明していただき、総統府にて副総統である陳建仁氏を訪問した際、私のつたないコメントにも関わらず暖かい言葉と笑顔で接して下さった。そして延平高級中学訪問とホームステイ。交流会に参加した現地の生徒たちと放課後出かけたが、夜市や有名な小籠包の店など様々な場所に連れて行ってくれた。食事の時は私がベジタリアンであることを配慮した注文をしてくれ、帰宅後はどの調子が悪かった私に数日分の薬までくれた。たった1日の交流であったが、翌日別れるのがこんなに名残惜しかったことはない。

また、この研修旅行を共にした受賞者のみんなとの交流も私にとってかけがえのないものだ。団員の台湾に対する姿勢や学習意欲は、ここには言い表せないほどの力を私にくれた。年齢も性格も違ったが、「台湾」という不思議な縁で出会えたすべての人達とのつながりをずっと大切にしていきたい。

「台湾で一番美しい景色は人である」という言葉を後に聞いて、私はその言葉に強く賛同した。台湾の人たちは親切な人達が多いと前から耳にはしていたが、今回は実際に彼らの優しさを肌で感じた。私はそんな彼らに応えるべく、この先も台湾と日本の友好の懸け橋であり続けるよう努力していきたいと心の底から思った。

【審査委員長】渡辺 利夫(拓殖大学 学事顧問)

【作文部門審査委員】

張 温 恭 (台北駐日経済文化代表処 広報部 諮議)
さかもと未明 (漫画家、作家、コメンテーター)
室 館 勲 (株式会社キャリアコンサルティング 代表取締役)
林 翠 儀 (自由時報 東京特派員)
山本 秀也 (産経新聞社 論説委員 兼 フジサンケイ ビジネスアイ編集長)
上坂 徹 (日本工業新聞社 フジサンケイ ビジネスアイ 代表取締役社長)

審査委員

(敬称略・順不同)

【スピーチ部門審査委員】

顧 欽 誠 (台北駐日経済文化代表処 広報部 部長)
馮 彦 國 (横浜中華学院 校長)
吳 育 珊 (東京中華学校 教諭)
林 翠 儀 (自由時報 東京特派員)
山本 秀也 (産経新聞社 論説委員 兼 フジサンケイ ビジネスアイ編集長)